

不妊治療でよく使われる漢方とツボ

前編

患者さんにとって不妊治療はとてもデリケートで、治療には精神的なケアも求められます。

◆漢方医橋本正也先生をお招きし、体质改善とともにストレスを緩めることで身体を整えていく漢方についてお話をうかがいました。今回はまず

不妊治療に用いられる漢方とツボをご紹介します。

西洋医学でも
漢方を使うことが
多くなってきた



◆足立病院生殖内分泌医療センター長
中山貴弘先生

は言い切れません。漢方と同じように症状が改善してから、治療法を変え、ツボも変えなければなりません。今回は皆さんにわかりやすく良く使われる代表的なツボをご紹介しましょう。

1 パワーが無くて冷えている人三陰交、関元に鍼とお灸をします。もともと妊娠するための「気」が不足すると全身の血流が悪くなります。三陰交は肝、脾、腎の三つの経絡が交わる交差点で、不妊治療によく使われます。ツボを鍼やお灸で温め、気を補って全身の血行を良くし冷えを改善します。

2 頭に血が上つて下半身が冷えている人

太衝、合谷などに鍼をします。目や頭の使い過ぎで気が上つてしまい全身に気が廻らなくなり上半身は熱かたり、ほてつたりするのに下半身が冷えるという状態に気を巡らせます。

3 ストレスによって血管が収縮し冷えてしまっている人

内関、神門、百会などに鍼をします。持続的なストレスはため息をついたり気持ちがやもやしたりして自律神経の不調をきたします。これらのツボは気持ちをリラックスさせ血流を穏やかにして冷えを改善させます。

漢方薬で 冷えのぼせを治す



◆財団法人 高雄病院 漢方医
橋本正也先生

非常に悪くなっている人には、桂枝茯苓丸を用います。つまつた血管を掃除するイメージです。

4 水分を取り過ぎて冷えてしまっている人

復溜に鍼をします。水分の取り過ぎや自分の水分の処理能力が落ちたりすると体に余分な水分が停滞し下半身がむくんだり、顔や手がむくんだけりして体がずっと冷えた状態を温めむくみを取ります。

大村 最近は西洋医学でも漢方薬を用いることが増えています。それに東洋医学的見方が加わればいいと思います。

中山 明らかに必要な人には処方します。使うのはオールマイティな当帰芍藥散が多いです。P.C.O (多囊胞性卵巢症候群) の場合L.H (黄体形成ホルモン) を下げるために芍薬甘草湯を用いるのですが、男性ホルモンを下げる働きもあります。私たちの場合は男性ホルモンが高いから下げよう、黄体形成ホルモンが高いから下げようといった西洋医学的な使い方をしますね。

漢方と鍼灸が連携して患者さんをサポート



◆烏丸御池鍼灸院 院長
大村賢秀先生

橋本 冷えですが、パワー不足の冷え。瘀血、血虚、つまり血の流れが悪いための冷え。ストレスなどで気の流れが滞つて起こる冷え。水分の過剰の冷え。体が熱すぎることで起こる下半身の冷え等、様々な原因があります。これらの原因に合わせて漢方薬を用いるのですが、例えばパワー不足の人用いる八味地黄丸を体が熱くて冷えのぼせている人に用いると、むしろ悪化します。

大村 それはそれでありますよね。それに東洋医学的な見方が加わればいいと思います。

大村 冷え症に対するツボにはいろんなタイプがありますので、一概にこの冷え症だからこのツボと

ストレスでイライラすると体は熱を持ちます。熱は専ら上へ昇るのでのぼせときますし、下半身は冷えます。また、陰虚と言いますが体を冷ます働きが弱っていて、体がすぐ熱くなる状態があります。ストレスや頭を使う、気候の変化などでのぼせが起り下半身が冷えきます。六味丸を用いたりします。

大村 冷え症に対するツボにはい

るんタイプがありますので、一概にこの冷え症だからこのツボと



※次号の後編では
ストレスを緩和する漢方治療の
お話を中心にお届けします。